

6年●組 社会科学習指導案

1 単元名 「差別を解決するためのあゆみ」(「明治の国づくりを進めた人々」)

2 指導の立場

単元について

本単元「明治の国づくりを進めた人々」では、学習指導要領の内容項目(1)のキを扱う。

- (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めようとするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。

キ 黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。

本単元「差別を解決するためのあゆみ」(世界に歩みだした日本)は、6年生社会科歴史分野の同和問題に関わる学習内容を一つにまとめ、再構成したものである。(3 単元構造図を参照。)本校では、40年余りにわたって、同和問題の解決に地域ぐるみで取り組んできた歴史がある。同和問題は、『日本社会の歴史的発展の過程において形成された身分階層構造に基づく差別により、日本国民の一部の人々が、長い間にわたって経済的・社会的・文化的に低位の状態におかれ、現代社会においてもなお基本的人権を侵害され、とくに近代社会の原理として何人にも保障されている市民的権利と自由を完全に保障されていないという、深刻にして重大な社会問題である。(1965年「同和对策審議会答申」より)』。差別や偏見に基づくこうした行為は他人の人格や尊厳を傷つけるものであり、決して許されるものではない。差別の解消には、歴史的背景を正しく理解し、自分自身の周囲の人々に対する見方が偏見や因習に囚われたものでないかを考え、改善をしていくことが必要である。

この単元の学習を通して、本校の児童が厳しく差別をされてきた人々の生活の様子や差別の社会的背景、政治的要因など、歴史的な経緯について正しく学べるようにするとともに、差別を受けながらも一生懸命に生きようとした人々の姿に共感したり、人権を守るために行動することの大切さや差別の無い世の中の素晴らしさについて考えたりできるようにしていきたい。

3 単元構造図 「差別を解決するためのあゆみ」

◇単元前の意識

差別の歴史的事実について理解している児童はごくわずかであり、授業を通して初めて知る児童ばかりである。どんな歴史的な事実があったのだろう。

【単元を貫く課題】

差別をなくすために大切なことはなんだろう。

【① 室町時代にあった差別意識】

生死に関わる仕事や自然を作り変える仕事、神に関わる仕事などのように、特殊な能力をもったと思われた職業によって、差別を受けていたことが分かる。

- ・庭師 ・皮革業 ・猿回し
- ・自然や生死に関わる仕事

【② 江戸時代にあった差別意識】

室町時代は職業で差別されていたが、江戸時代では、それが**制度として差別を強要される**ようになった。けれども、それらの人たちの仕事が社会を支えていることもわかった。

- ・身分制度 ・きまり
- ・罰せられる ・死牛馬の処理
- ・皮製品の製作

【③ 差別されていた人の動き・思い ～汚染一揆～】

罰せられることを分かっているながらも、自分や子孫を差別から守るために立ちあがった人たちの気持ちがわかった。自分たちも人権を守るためには、差別を許さないという強い気持ちが必要で、進んで行動しなければならないと感じた。

- ・汚染一揆 ・儉約令 ・命令 ・命がけ ・守り神 ・人権

【④ 差別していた人の動き・思い ～解放令反対一揆～】

差別で苦しんでいた人が**身分(きまり)**の上で解放されたにもかかわらず、**昔からの慣習**をぬぐいきれない人間の心の弱さを知った。差別をなくそうと制度を整えても、形じゃなくて人間一人ひとりの**心**の部分で豊かになっていくことが差別意識をなくす一番の方法だと感じた。

- ・四民平等 ・解放令 ・解放令反対一揆 ・慣習 ・平等 ・心の中

【⑤ 差別のない社会に向けて ～水平社宣言～】

民衆運動が盛んになった大正時代には、西光万吉らの手により、全国水平社が設立された。これにより、全国の差別に苦しんできた人々が**団結**し、**差別と闘い**、解決していこうとする動きが現れた。相手を大切にしていこうためには、**差別はいけないという同じ思い**を抱き、互いに**協力して**、行動することの大切さを学んだ。

- ・水平社 ・水平社宣言 ・西光万吉 ・団結 ・全国

厳しく差別をされてきた人々の生活の様子や、差別の社会的背景、政治的要因など、歴史的な経緯について正しく学べるようにするとともに、差別は絶対に許さないと立ち上がった人々の思いに共感したり、人権を守るために行動することの大切さ、差別の無い世の中の素晴らしさについて考えたりできるようにしていく。

4 本時の目標

身分解放令が出された時の周囲の様子や人々の考えについて調べる活動を通して、解放令の後にも差別が続いたことを知り、真の解放とはならなかった理由は人々の差別解消への抵抗感であったことに気づき、差別する側の人々の気持ちについて考えることができる。

5 本時の展開

過程	学習活動	指導・援助 (※人権教育の観点に関わって)
つかむ	1 江戸時代の身分制度について、既習事項を確認する。 ・江戸時代は幕府が人々を支配するため、武士、町人、百姓、という身分がつくられた。また、厳しく差別された人々もいた。洩染一揆のように差別と闘おうとする人々もいた。 2 解放令について知る。 ・差別されていた人は、これで差別がなくなると思って、とても嬉しかったと思う。 ・制度で差別されていたのだから、それがなくなれば、きっとこれから差別はなくなると思う。 ・武士とか農民としては、きっと嫌だったと思う。 3 解放令反対一揆のグラフから、解放令に反対する人々がたくさんいたことに気付かせ、課題意識をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 解放令が出て身分制度が解消されるのはいいことなのに、それに反対する人がいるのはなぜだろう。 </div>	・教科書やノートをもとに既習事項をふり返り、江戸時代の具体的な差別事例について想起する。 ・太政官布告(解放令)を提示し、内容を確認する。「解放令」という名称をおさえる。 ・解放令が出されたことを知った人々はどんなことを考えたのか、予想する。 ・資料「解放令反対一揆」を提示し、解放令に反対する人々が、差別に苦しんできた人々の集落を襲う事件が各地で起こったことを知る。 ・資料「喜びで迎えられた解放令」から、差別に苦しんできた人々の気持ちを考える。
考える	4 資料を基に「解放令」に対する人々の思いを個人追究する。 ・差別されないで、他の人たちと同じになれる。うれしい。 ・これで自分のやりたいことができるようになる。 ・これまでの願いであった差別されない世の中になる。 ・今まで自分が差別してきた人と一緒にされたくない。 ・一揆が起きている。やっぱり、みんなも解放令に反対なんだ。 ・きまりが無くなったって、差別する理由はまだある。 5 考えたことをグループで交流し、当時の人々の「解放令」に対する思いを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・差別をなくそうとせず、差別を残そうとするのはおかしい。 ・全然差別がなくなっていない。 ・差別してきた人たちの心の中に、まだ差別する気持ちが残っている。命令が出ただけじゃやっぱりだめなのだな。 </div>	・差別されてきた人、差別してきた人両方の観点から思いを書くように指示し、双方の思いに共感できるようにする。 ・反対一揆がおこったことは仕方ないという方向ではなく、おかしい、偏見であると気付けるように、一揆発生件数増加の意味を考えさせる。 ・制度上解消されても、差別に対する慣習が少しも是正されていないことに気付かせる。
深める	6 一揆をおこした人々の気持ちについて考える。 ・今まで自分とは仕事や住むところも「異なる」はずの人たちと一緒にになったのが嫌だ。 ・昔からの習慣でかかわることができなかったと思う。 ・本当は仲良くしたい気持ちもあったけど、気持ちの中で整理できなかったのだと思う。 ・周りからの目で、自分だけ仲良くすると自分も差別されるかもしれないと思ったから怖かったのだと思う。 7 授業のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 明治時代になって身分制度が廃止され、これで平等な世の中になると思ったのに、解放令反対一揆が各地でおこり、差別に苦しんでいる人たちはさらなる被害を受けた。制度として差別をなくそうとしても、人間の心の中に残った弱い心のために、本当の意味で差別はなくならないのだと思った。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※「差別」は制度上廃止されても慣習・心情的に残っていた事実気付かせる。平等を本当は望んでいた人々の気持ちや弱さにも目を向けさせる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 深「差別はどこに残っていたのかな。」と問うことで、差別は制度ではなく、民衆の心に残っていたことに気付かせる。 </div> ・弱い心による差別はその時代特有のものではなく、逆にこの時から、公のものからそれぞれの人の潜在的意識の中になったことにふれ、自分たちの普段の生活を振り返らせる。
まとめる		